

# 第3学年1組 特別活動指導案

日 時 平成28年6月30日 (木)  
5校時

対 象 3年1組 21名  
場 所 3年1組 教室  
指導者 人権教育推進教員

## 1. (題材名) あなたならどうする？ (分類 3-(2)-ア 思いやりの心の育成)

資料名：人権教育資料「ほほえみ」自分を大切に 友だちも大切に

## 2. 児童の実態と題材設定の理由

本学級は、「みんな仲良く楽しいクラス、もくもくそうじをがんばるクラス、話をよく聞きががんばるクラス」を学級目標に掲げ、相手の立場になって考え助け合い、思いやりをもってともに伸びていく仲間づくりを目指している。素直で明るい児童が多く、普段から、困っている友だちに優しく声をかけたり、手助けしたりする姿も見られ、係や清掃活動においても進んで取り組む姿勢が感じられる。学習の際には、意識してペアトークなどの交流活動を取り入れることで、互いの話に耳を傾けたり、アドバイスし合ったりすることもできるようになってきた。しかし、些細なことでトラブルが起こると、感情的な言い争いになってしまい、攻撃的な発言が出て、思うように自分の気持ちを伝えられないことも多い。また、日常生活でルールを守れていないクラスメイトに対し、注意を促す際にも、同様の光景が見られ、問題解決に結びついていないこともある。たとえ正しいことを言っている、伝え方によっては、受け止め方に違いが出てくることには気づけておらず、自分が言いたいことを正しく伝えられていない実態がある。子どもたちに健全なコミュニケーション能力を育むことが、インターネット等のコミュニケーションツールに発生する新たな人権侵害、いじめなどの人権課題を克服していくことにつながるとの視点から本題材を設定した。

本題材は、学校生活において、これまで起こった出来事を具体的な場面として設定し、どのように伝えれば、相手の立場を尊重しながら問題解決できるかを考えるものである。ほとんどの児童が経験したり、目にしたりする身近な事例を挙げることで、その時の状況や気持ちを振り返り、自分たちの生活に起こりうる問題と捉えることができる。さらに、自分の思いを伝えるために大切なことを、ロールプレイを取り入れることにより、感覚的に体験できる題材なので、実生活でもすぐに活かすことが期待できる。また、自分の主張を大切にしながら、相手のことも配慮する能力を育てるのに適した題材でもある。

指導にあたっては、これまでの経験から、友だちとのやり取りの中で、うまく自分の思いが伝わらず争ったり、悲しい気持ちになったりした場面について振り返り、「自分の気持ちを正しく伝えるには、どんな言い方をすればよいか」を考えるようにする。伝え方には、「**あなただけメッセージ**」(相手への感情的で攻撃的な主張)と「**わたしもあなたもメッセージ**」(自分を主体として、相手を尊重しながら自分の言いたいことをきちんと伝える主張)の2通りがあることを知り、自分も相手も大切にしたいコミュニケーションは、後者であることを捉えさせる。グループでのロールプレイを取り入れることにより、実際に言われたときの気持ちなどを感じやすくし、伝え方によって相手の受け止め方が違うことに気付かせたい。また、児童の中には常に相手を優先し、自分の主張ができない児童もいるので、相手を考慮する必要はあるが、まずは自分のことを考えて、主張すべき場面では気持ちを伝えることが、自分を大切にすることであることについても押さえるようにする。

コミュニケーション能力の向上は、日常の生活を通して意識しなければならないため、この学習をきっかけに、家庭と学校との人権感覚の育成という視点に立った連携をさらに深め、子どもたち自身が、自分たちの伝え方を振り返り、今後の学校生活に生かしていけるよう指導していきたい。

◆アサーションについて◆

アサーションとは、相手のことも考慮しながら、自分の欲求や考え、気持ちなどを、率直に、正直に、その場の状況に合った適切な方法で表現することであり、互いの人権を尊重するコミュニケーションのことである。自己表現の形態を次の3つに分けて考えることが多いとされている。本題材では、③のアサーティブな主張をロールプレイの中で意識させたい。

- ①非主張的(ノン・アサーティブ)な自己表現  
常に相手を優先し、自分のことは後回しにする表現
  - ②攻撃的(アグレッシブ)な自己表現  
自分中心に考え、相手を無視して自分を押し通す表現
  - ☆ ③アサーティブな自己表現  
自分のことをまず考えるが、相手のことも配慮する表現
- (小学校中学年用教育資料・ほほえみ活用の手引き p 11 参照)

3. 学習指導計画 (全2時間 本時2/2)

時	学習活動	留意点
1	「ふわふわ言葉とチクチク言葉」 ・言われて嬉しかった言葉と悲しかった言葉について振り返り、自分たちの使っている言葉が引き起こしている感情に気づく。 (ふわふわ言葉) ありがとう・だいじょうぶだよ・大好き・すごい！ ずっと友だちだよ・がんばれ など (ちくちく言葉) ばか・しね・ちび・ぶた・うざい・きえろ きもい など	・どんな言葉のときにどんな気持ちになったのかを思い出させる。 ・たとえ自分にとって悪気のない言葉でも、相手は傷つく可能性があることにも気づかせる。
2 (本時)	「あなたならどうする？」 ・これまでの経験から、うまく自分の思いが伝わらず争ったり悲しい気持ちになったりした場面について振り返り、自分の思いを正しく伝えるにはどのような言い方をすればよいかを考える。	・実際に学級で起こった事例を取り上げるようにする。 ・伝え方によって受け止める気持ちが違うことを実感させる。

4. 評価規準

観点	集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活への 知識・理解
評価規準	自己の生活上の問題に関心をもち、意欲的に日常生活や学習に取り組もうとしている。	楽しい学級生活をつくるために、日常生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。	楽しい学級生活をつくることの大切さ、そのためのよりよい生活や学習の仕方などについて理解している。

## 5. 本時の学習

### (1)本時のねらい

- ・相手の気持ちを考えながら自分の思いを伝えることの大切さに気づき、自分も相手も大切にしようとする態度を育てる。

### (2)準備物 ワークシート・似顔絵カード

### (3)本時の展開

	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
導入	1 これまでの経験から、友だちとの日常の会話の中で自分の思いが伝わらなかった場面について振り返る。 2 コミュニケーションについて考える。 場面① 「そうじ場所に来なかった友だちに対して」(主張) ・自分の伝え方によって、相手の受け止め方が違うことを知る。	・これまでにあった出来事を、そのときの状況や気持ちなどを想起できるように助言する。 ・相手に伝えたい思いを明確にして、2通りの伝え方を表示するようにする。 ※似顔絵カードの活用 ◎伝えたい思い 「ちゃんと一緒にそうじをしてほしい」 ①「今日来なかったやろ！さぼりやん！！」 (あなただけメッセージ) ②「一人で大変やってん。今日来んかったけど、何かあったん？」 (わたしもあなたもメッセージ)	・伝え方によって相手の受け止め方が違うことがわかる。 (観察・発表)
展開	あなたならどうする？		
終末	3 2つの場面について、自分の思いを正しく相手に伝えるには、どのような言い方がよいか考える。 場面② 「順番を抜かされてしまったとき」(主張) 場面③ 「友だちに誘われて、断わらなければならないとき」(断る) 4 今日の学習を通して、これまでの自分を振り返り、これからの生活について具体的なめあてを書き、発表する。	・まず、相手に伝えたい思いを明確に示してから考えさせるようにする。 ・2人グループでロールプレイを取り入れながら、実際に言われたときの気持ちなどを感じられるようにする。 ・児童の中には、相手の気持ちを優先し、自分の気持ちを言えない児童もいるので、思いを伝えることが自分を大切にすることにつながることを伝える。 ・自分の思いを伝えるときは、自分の主張を大切にするとともに、相手の気持ちを考慮した言い方が有効であることを確認する。	・相手の気持ちを考慮した伝え方を考えている。 (ワークシート・観察・発表) ・これからの生活に生かしていこうとしている。 (振り返り、発表)

### ◎本時の視点◎

- ・「自分の気持ちを正しく伝えるには、どのような言い方をすればよいか」を考えているか。

## 6. 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
・自分の立てためあてや取り組みについて振り返る。 ・友だち同士で取り組みを確認しあう。	・終わりの会など振り返る機会を生活の中に設定し、実践化に向けて継続した取り組みになるように支援・助言する。	・自分の伝え方について考え、具体的に立てためあてを実践しようとしている。